

「土砂災害がある度に思うこと」

山口県 上関町立上関中学校 3年 ^{にしやま}西山 ^{みや}彩綾

ここ数年、毎年梅雨時期になると、長雨や豪雨による自然災害のニュースが後を絶ちません。上関町に住む私は、小さい頃から、台風の猛烈な暴風雨と、満潮が重なった時の高潮に恐怖を感じる事がとても多かったです。しかし、それでもまだ、自分自身が災害被害に見舞われたことがなく、新聞やニュースで被害にあっている地域を見ると、本当に心が痛かったです。短時間でも、局地的な豪雨であつという間に被害が発生し、逃げられなくなるケースもあると聞きます。近隣の被害の発生で、私が身近に感じた災害は、2年前の7月にあった西日本豪雨災害。祖母の家に行く国道沿いの山陽本線が被災し線路が土砂で覆われ、電車は不通。国道も片側通行になり渋滞を余儀なくされていました。町内から町外に出る県道も、土砂で通行止め。迂回路で町外へ出ることもありましたが。そして、今年7月の豪雨では、50年に一度の大雨という情報も発表され、上関町でも避難所が開設されたとニュースのテロップにながれてきました。上関は大きな川がなく、山から湧き出る水も海へ流れていくため、洪水による被害は少ないと思いますが、土砂崩れは、雨が上がっても地盤のゆるみから発生することもあり、本当に怖いと感じます。日頃から気象情報や避難経路の確認はとても大切だと感じます。

私の家にも、役場から配布された、ハザードマップがあり、居間の壁に貼ってあります。両親が共働きのため、小学生の頃から、災害発生時に両親がいないことの方が多いと言いつ聞かされてきました。だから、台風や豪雨による土砂災害の時、台風の高潮の時、地震の時、それぞれ兄弟妹で、ハザードマップを見てどこにどう避難するか、誰が何を持っていくのか、話にあがるがよくあります。家の周辺の崩れやすそうな箇所や、雨でよく溢れる側溝など、日頃の登下校中にも確認することで、シミュレーションしています。災害の発生直後は、救助を待っても、救助して下さる人も自分の身の安全確保が必要なため、到着に時間がかかると聞いたことがあります。だから、まずは、自分たちの身を自分で守れるように、中学生なりに考えておくことはとても大切だと思います。

前述した、2年前の西日本豪雨災害の後の夏休み、消防士の方、消防団の方など、地域の方も参加され、防災キャンプを行いました。グループに分かれ、それぞれのブースで災害時のデモンストラクションもあり、消防署の方から、救助方法や応急処置の仕方を学んだり、段ボールで寝床づくりを行ったり、自分たちにできる取り組みを考えたり、災害時の保存食をもらったり、実際災害時が起こったことを想定しての体験ができました。当初は、体育館に1泊2日の予定だったけれど、あまりの猛暑だったため、1日の実施でした。実際、この時期に発生した災害の時には、猛暑だからと言ってられないだろうし、今年は新型コロナ対策もあるから、リスク管理もより配慮が必要になるんだろうと想像できます。それに、体育館まで避難できればいいけれど、もしも体育館に行くまでの道が寸断されていたらどうするんだろうと、不安にもなりました。また、私たちは、もし両親が仕事でいなくても、足腰丈夫でとりあえず避難所にたどり着けるかもしれないけど、近所のおじいちゃん、おばあちゃんは大丈夫かなと心配にもなりました。もし、私の住むところで土砂災害警報が出たら、自分ができることとして、早めに、「危ないから一緒に逃げよう。」と声をかけることはできるなと思いました。そして、近所のよく知っている大人の人に助けを借りることもできると感じます。声をかけたり、かけられたりできる近所とのつながりも、大切なことだなと強く感じました。このキャンプの参加は、日頃から備えておくことの意識を高める、とても貴重な経験でした。

自然災害は、いつ、どこで、誰が経験するかわかりません。私はまだまだ、災害について知らないことがたくさんあります。県や町のホームページなど、確かな情報を集め、まずは知ることが備えには必要だと思います。だれもが経験せずにすむのが一番だけど、もしやの時のために、これからも自分のできる準備を、「その時」のために準備しておこうと思います。